

# 地域との協働による高等学校教育改革の推進

- 高等学校と市町村、地元企業、大学等が連携し、高校生に地域課題解決等を通じた探究的な学びを提供する仕組みを構築し、成果を全国へ普及する。

探究的な  
学びを推進

高校生×地域課題

高校生の興味・  
関心を喚起

## 高等学校

- ・地域との協働による活動を学校の活動として明確化
- ・学内における実施体制を構築

- ✓地域における活動を通じた探究的な学びの実現(新学習指導要領への対応)
- ✓学校内ではできない多様な社会体験

## コンソーシアム

- ・身に付けるべき資質・能力の共有や教育プログラムの開発
- ・学校と地域とをつなぐコーディネーターを指定

- ✓高校生のうちに地元地域を知ることにより、地元への定着やUターン促進
- ✓地域の活動に高校生が参画することにより、地域活力の向上へ貢献

## ポイント③

# 地域課題解決等を通じた探究的な学び 《プロジェクト学習(PBL)》

# 島根県では各校・全県で推進

総学、学校設定、課外に加え「地域系部活動」としても展開



生徒の  
変化・成長



大人の  
変化・変容



# PBL（プロジェクト学習）を提供する仕組みを構築し全国へ普及 例：PBLを称賛する舞台“全国高校生マイプロジェクトアワード”



北海道から沖縄まで全国各地の高校が実施（昨年度は115校1700人が参加）

# 地域課題解決型学習の質向上ポイント 【越境・異質性との出逢い】



**例：地方⇔都会⇔海外**

地域外に出る・外から受け容れる・交流する

## 地方の生徒

- ・多様な価値観・異文化と出逢い
- ・新たな刺激・視野の広がり
- ・ふるさとの価値の再発見
- ・生徒増により学校・地域の活性化



GUIDE  
BOOK

しまね留学ガイドブック

Shimane Prefecture  
<http://www.shimane-ryugaku.jp>



## 都市部・海外の生徒

- ・豊かな自然・文化・人間体験
- ・自立心、たくましさ、人間力の向上
- ・第二のふるさとづくり
- ・学校や地域の選択肢が増える



グローバル人材の育成

多様性ある教育環境に向けた「地域みらい留学」

- 地域振興の核として高等学校教育の質の向上に取り組む。
- 高等学校と市町村、地元企業、等が連携し、地域課題解決等を通じた探究的な学びを提供する仕組みを構築し、成果を広く普及させる。

## ポイント④ 見える化・評価

勘・経験・感覚の  
3K頼み

価値とプロセスの  
見える化

高校生と地域課題のマッチングを  
に め み

KPIを設定  
PDCAサイクルを推進

コーディネーター



高等学校と市町村等との協働体制の構築  
・学校や地域とのマッチングを実施

学びの実現(新学習指導要領への対応)  
✓学校内ではできない多様な社会体験

都道府県教育委員会等

- ・高等学校の取組を支援、伴走
- ・教職員の研修等を通して知見を他の高校へ普及

により、地元への定着やUターン促進  
✓地域の活動に高校生が参画することにより、地域活力の向上へ貢献

高等学校

地域

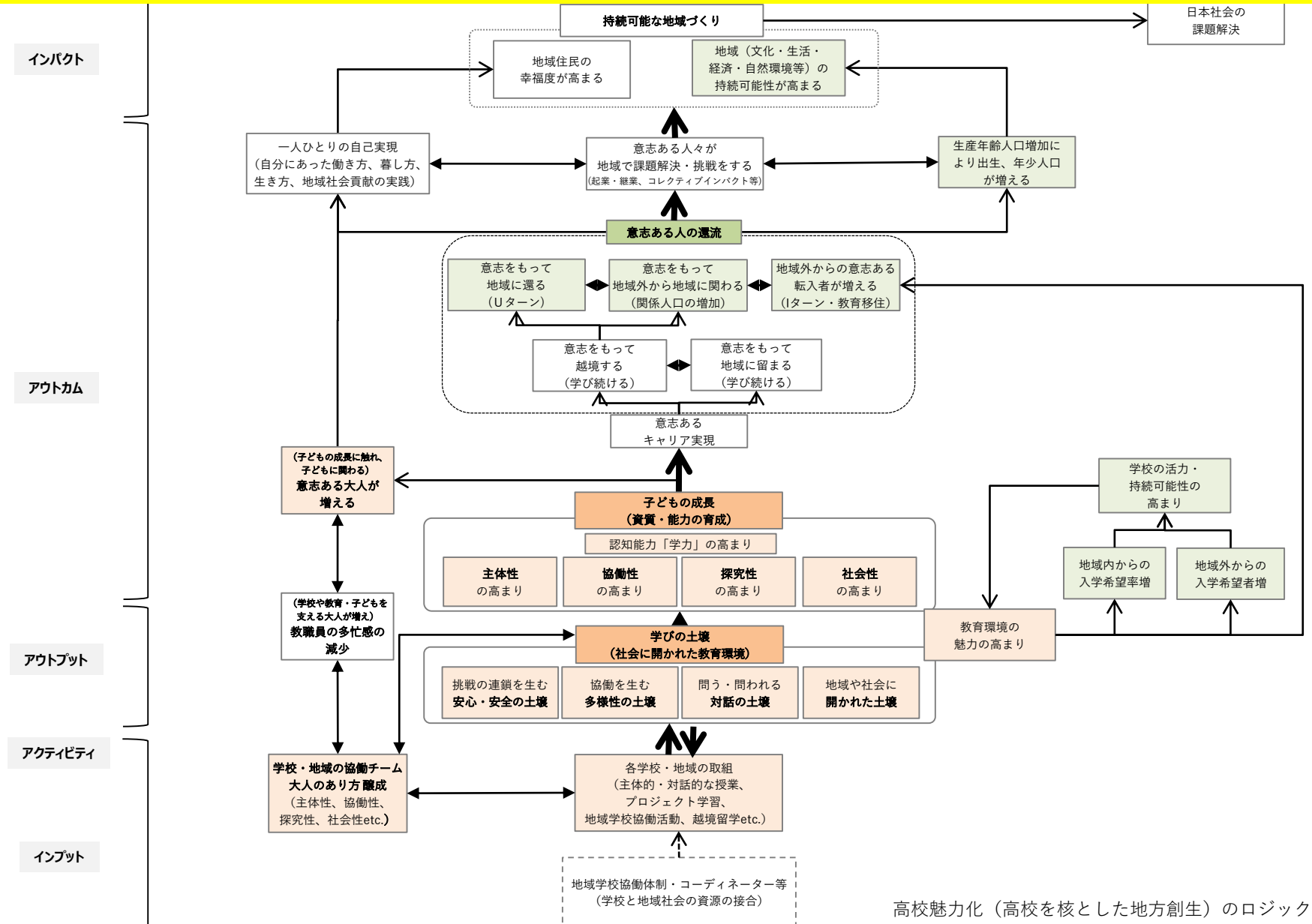
コンソーシアム



市町村  
(首長・教育委員会・議会等)

# 地域との協働による高校魅力化のプロセス・影響の可視化

## 地域インパクト評価も開発



高校魅力化（高校を核とした地方創生）のロジックモデル

# 生徒の意識行動/学習環境/大人のあり方の見える化 地域との協働による高校魅力化の評価システム

## 「高校魅力化評価システム」について（概要）

2018年10月24日・25日  
平成30年度全国高等学校教育改革研究協議会 配布資料

一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームは、高校魅力化に取り組む、または今後取り組む意欲のある学校・地域向けに、現状の学校・地域等の生徒の教育環境の「見える化」、そして魅力化による成果の「見える化」のための評価手法として、「高校魅力化評価システム」を開発しました。 ※次年度より各校、地域で利用可能とすることを想定しています。

### 「高校魅力化評価システム」の特徴

#### 1. 「社会に開かれた教育課程」に求められる資質・能力要素を把握



アンケート調査を用いて、上記の資質・能力に関する生徒の意識と、資質・能力が発揮された際の実際の行動の状況を捉えます。

#### 2. 生徒の学習環境（＝「学びの土壌」）を把握

魅力化の現場では、個々の成長実感の背景に、周りの人の存在、関係性、機会が重要な役割を果たしています。こうした各地独自の取組の基礎となる**生徒の学習環境**を「学びの土壌」と捉え、その現状を定量的に把握します。

<聞き取り調査から実際に得られた、生徒の成長の背景・要因>



- ・色々な人（生徒内外）が行動しているのを間近で見て感化された
- ・日常生活の中で多くの人と触れ合う機会がある
- ・自分は自分で良くて、他人の夢や行動と同じようにしなくても良いと言ってくれたスタッフの人 etc...

生徒の学びを深める学習環境に必要な4つの要素を抽出し、定量的に把握します



#### 3. 継続的な調査実施により、集団・個人の「伸び」とその要因を把握

本調査は毎年1度、継続して実施することにより、学年などの同一集団の資質・能力の伸びを把握することができます。また、地域の学習環境の経年変化についても捉えられるので、教職員、学校、地域の大人等の**具体的な行動目標の設定**にも役立てて頂けます。



### 「高校魅力化評価システム」の実施、活用方法

#### 1. アンケート調査の実施（年度当初の実施を推奨）

本評価システムは、「生徒用調査票」「大人用調査票」の2種類を用いたアンケート調査です。



##### 【生徒向け調査票】

- ・原則として回答校の全生徒を対象
- ・70問程度のアンケート
- ・学校がIDを設定し、web上で回答

生徒



##### 【大人向け調査票】

- ・回答校の教職員、コーディネーター、その他回答校に関わる地域の大人等（最大30名程度）を対象
- ・40問程度のアンケート
- ・web上で回答

大人

#### 2. アンケート調査の集計・分析

アンケート調査の結果は、「高校魅力化評価システムチェックシート」という形で、結果を読み取りやすい形でお返します。



他の回答校・地域の状況等と比較することで、自校の強み・伸びしろを把握することができます。

#### 3. アンケート調査の読み取り、目標設定への活用

アンケート結果をもとに、現状の振り返りを行い、各教員、各校の目標設定に活用いただけます。（結果の読み取りや目標設定のための研修もご用意可能です）

##### 職員研修で

◎チームが一丸となる目標の共有、成果や状態の評価に。

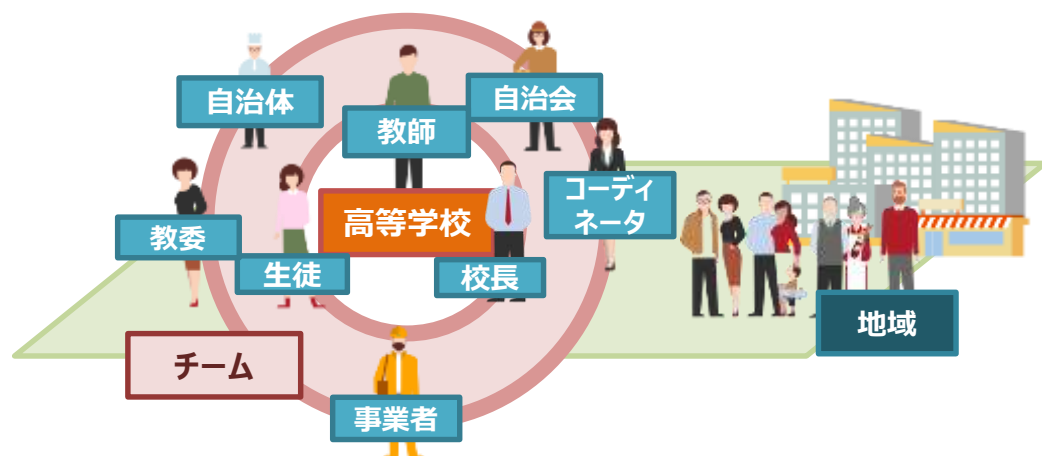
- ✓ 特に伸ばしたい点（自校の魅力化の狙い）
- ✓ 成果は出ているのか（目指す姿に近づいているのか）
- ✓ どこに課題があるのか など。

##### 学年会議で

◎各学年の状態、過年度との変化を把握し、教育活動の企画（ALやカリキュラムマネジメント）や進捗管理のサポートに。



# 「地域との協働」 をはじめると、



- 生徒の変化・成長を感じるが、周りに理解してもらえない
- 昨年度はうまくいったのに、今年は上手くいかない。。。



- 学校として、どこ（まで）を目指して取り組めばよいのか
- 学校と地域との一体感（チーム化）がなかなか進まない



- 関係者から「地域との協働」の成果の説明を求められる
- 次の一手として、どのような支援策が有効なのか



## 「地域との協働」

のPDCAサイクルに、評価システムを組み込むと、



生徒と学校・地域の**現状**（強み・弱み）がわかる



生徒と学校・地域の**変化**がわかる



伸ばしたい、改善したい、**次の一歩**



**目標の設定**や成果の把握の手がかり

意志・感覚に基づく判断を「**支える**」のが評価システム



## 今回開発した 「高校魅力化評価システム」の特徴



学年（教員）、学校（校長）、自治体  
（教育委員会）の**視点を統合**



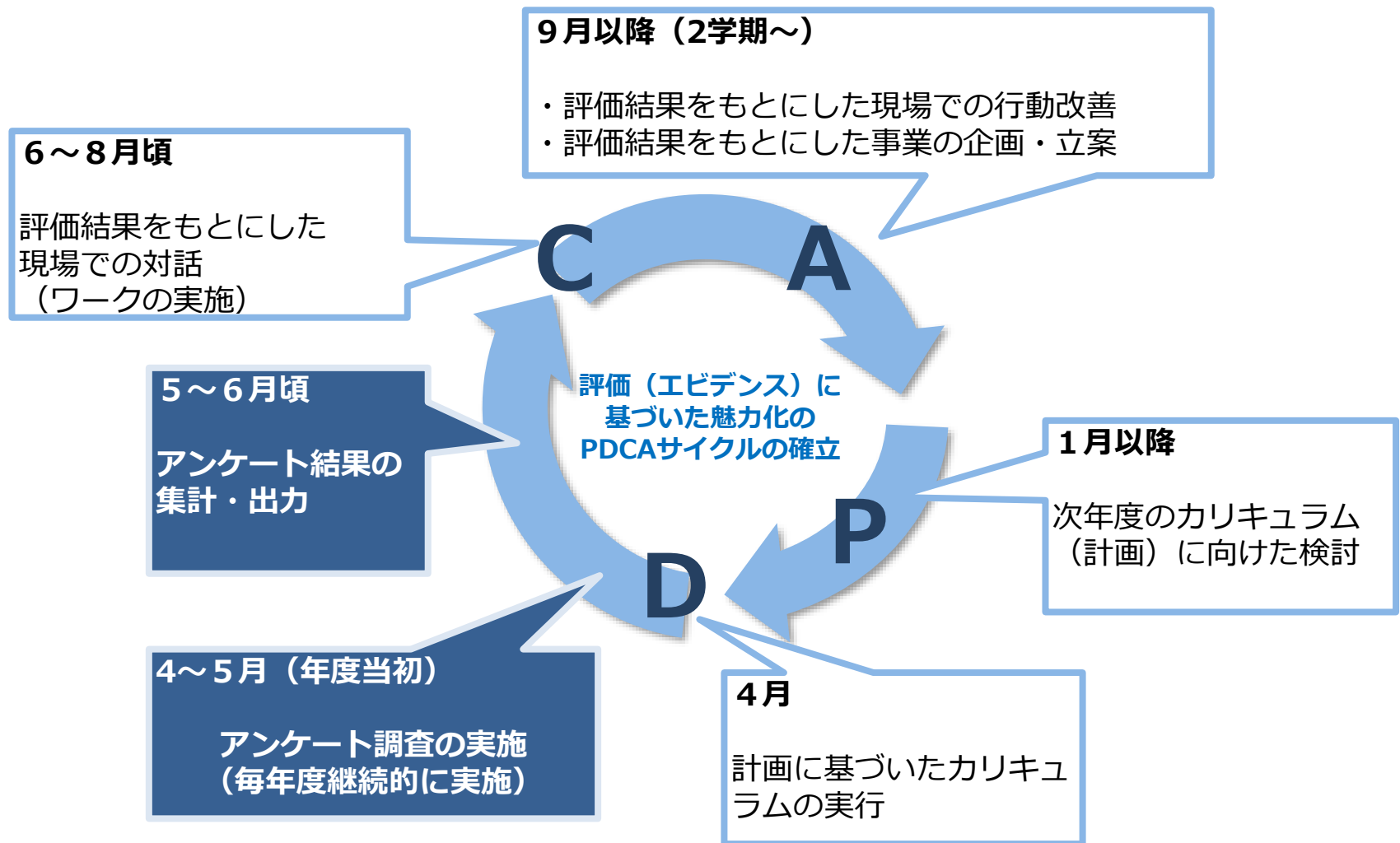
生徒の**学習環境、大人のあり方**も把握



次の一歩を見いだす**ワークをセット**で

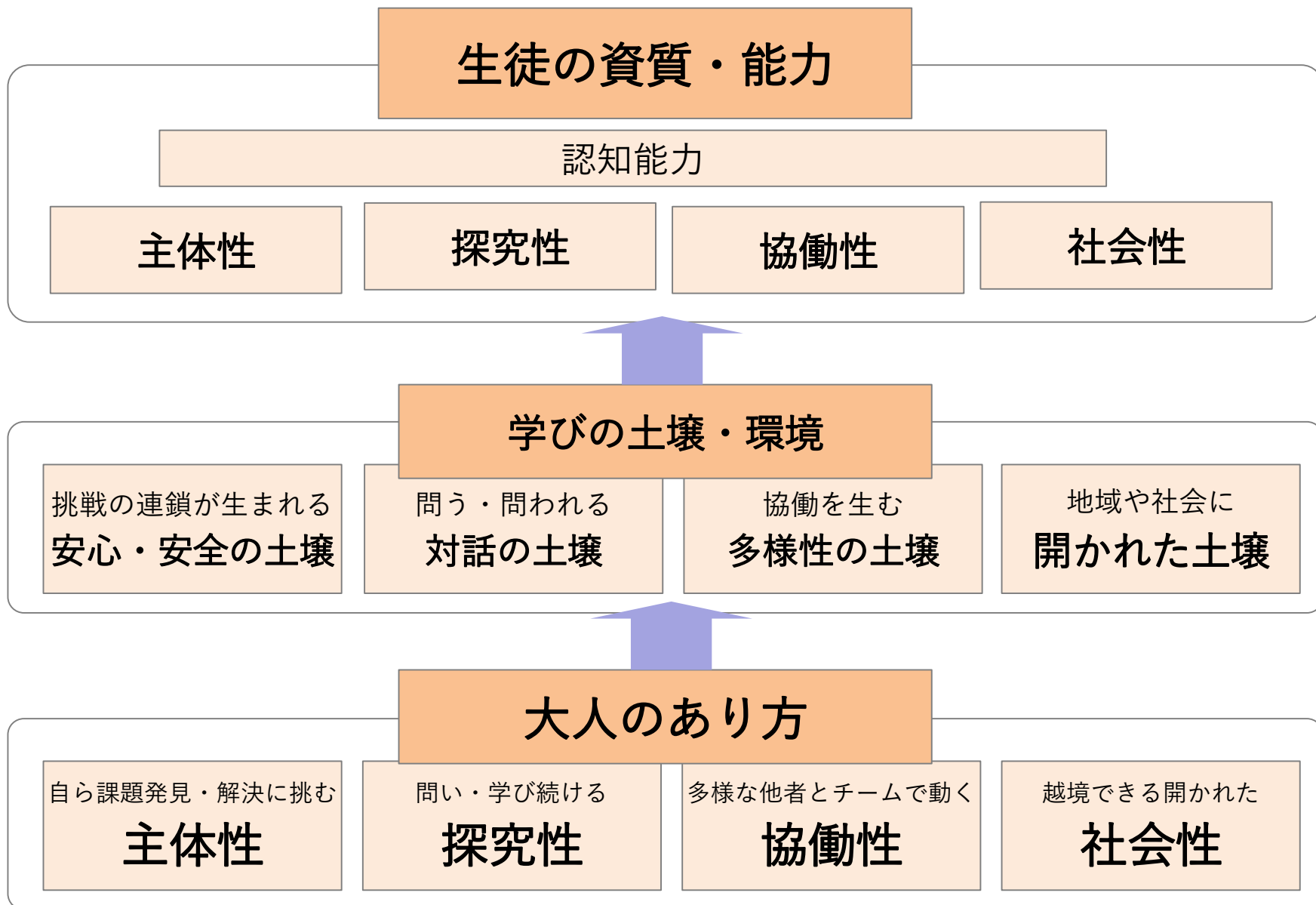
**詳しくは配付資料、並びに懇親会・分科会にて**

# 「高校魅力化評価システム」を活かしたPDCAサイクル



評価はなるべく早く始めると効果的

# 【魅力化の目的】 地域・社会の未来を拓く資質能力を育むために



# 地域との協働による高等学校教育改革の推進

- 地域振興の核として高等学校教育の質の向上に取り組む。
- 高等学校と市町村、地元企業、大学等が連携し、高校生に地域課題解決等を通じた探究的な学びを提供する仕組みを構築し、成果を全国へ普及する。

探究的な  
学びを推進

高校生×地域課題

高校生の興味・  
関心を喚起

## ポイント⑤

# 高校設置主体の 主体性・協働性

高等学校

- ・地域との協働による活動の学校の活動として明確化
- ・学内における実施体制

- ✓ 地域における活動を通じた探究的な学びの実現(新学習指導要領への対応)
- ✓ 学校内ではできない多様な社会活動の実現

コンソーシアム

- ・身に付けるべき資質・能力の有や教育プログラムの開発
- ・学校と地域とをつなぐコーディネーターを指定

・高校生のうちに地元地域を知ることにより、地元への定着やUターン促進

・地域の活動に高校生が参画することにより、地域活力の向上へ貢献

市町村  
(首長・教育委員会・  
議会等)

高校生と地域課題のマッチングを  
効果的に行うための仕組みを構築

コーディネーター



- ・高等学校と市町村等との協働体制の構築
- ・学校や地域とのマッチングを実施

都道府県教育委員会等

- ・高等学校の取組を支援、伴走
- ・教職員の研修等を通して知見を他の高校へ普及

KPIを設定  
PDCAサイクルを推進

縦割りで閉ざされた  
**教育委員会**



社会に開かれた  
**教育委員会**



## 部局横断型の魅力化推進チームの創設

県教委に加え、県地域振興部、地域研究センター、  
島根大学、定住財団、NPO等の30数名で構成

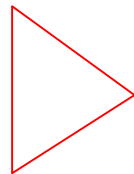
# 協働チームにより8プロジェクトを探究・推進

「PBL」「コーディネーター」「教員育成」「評価」  
「伴走」「ファンドレイジング」「県外・国外生徒募集」「卒業生」





管理・指導



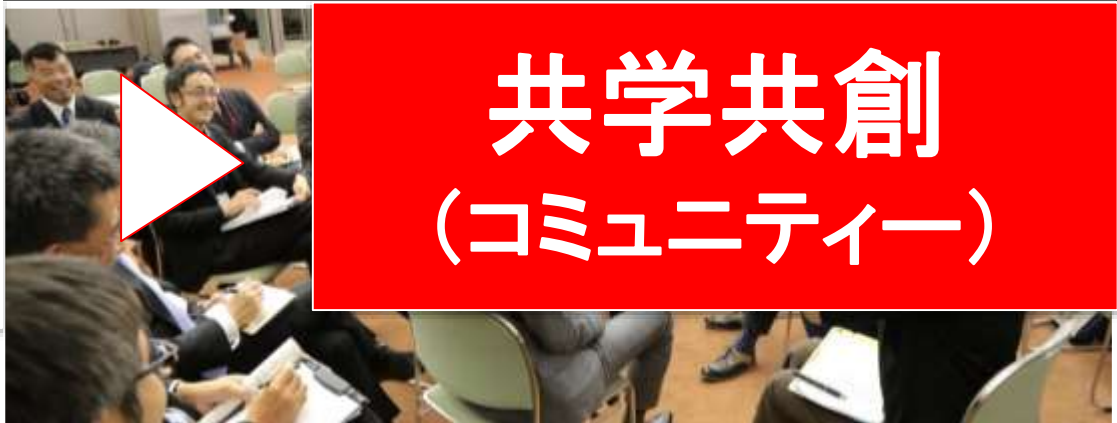
伴走・支援



**1コンソーシアム(高校/市町村)に2人の伴走者を配置**

現場の課題解決に向け、共に汗かき学び、対話し、組織をつなぐコーディネーション

# 孤軍奮闘 (各校・単独)



# 共学共創 (コミュニティー)



## 地域・学校を越え学びあうコミュニティーづくり

例: チーム育成研修(教職員・コーディ・市町村・NPO・伴走者等)





日本の高校教育の一層の魅力化に向けて  
ぜひ一緒に学ばせてください

この2日間は、今後につながる「ご縁」と  
全国の「共学共創コミュニティ」の起点になることを願って

# 参考：地方創生から見た高校魅力化

学校・教育をテコにした  
人づくり×人の流れづくり

**短**

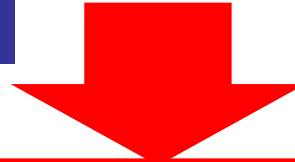
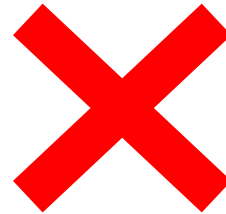
地域へ人  
(子育て世代・若者)に  
定住・Uターン  
してもらおう！

人の流れづくり

**長**

地域で未来を  
つくる人を  
育てよう！

人づくり



子連れ家族・若者のUIターン・  
地域留学・教育移住  
(出生率・子どもの増加/人財確保)

# 【目指したい姿】地域の次代の人づくり・人材育成エコシステムの構築

地域社会をつくる  
人づくり

地元就職・関係人口・Uターン

高校教育  
(高校)

義務教育  
(小中)

幼・保

社会教育  
(地域)

with

地域と共に  
つながり・関わる

for

地域のために  
行動・貢献

about

地域について  
知る・伝える

in

地域の中で  
体験する・浸る

# 次代の人づくり×人の流れづくりの穴

関係人口  
Uターン

大学等

高校

小・中

幼・保

地域

「高校」が施策の空白地帯

人財流出の  
出口



Uターン  
教育移住  
地域留学

人財育成・還流の  
要所

# 学校の有無が人口増減へ与える影響（参考）

例：離島における施設の有無による人口増減率の差

## ●病院・診療所の有無と人口変動

	1991年人口	2010年人口	人口増減率	差
なし	12,865	7,849	-39.0%	<b>-0.2%</b>
1軒	86,824	53,152	-38.8%	

## ●高校の有無と人口変動

	1991年人口	2010年人口	人口増減率	差
なし	114,029	69,319	-39.2%	<b>-10.9%</b>
1校	86,299	61,885	-28.3%	

## ●小学校の有無と人口変動

	1991年人口	2010年人口	人口増減率	差
なし	12,118	6,305	-48.0%	<b>-12.0%</b>
1校	130,007	83,168	-36.0%	

# 中山間地においても学校までの距離が 定住人口に大きな影響を与えている (参考)

## ● 中山間地域の定住人口維持要件 (判別分析結果)

順位	変数名	係数	F値	分析精度
1	⑩D I D地区までの所要時間	-1.3215	67.13	n=682 判別的中率 94.4%
2	①1人当たり課税所得	0.0074	62.36	
3	⑨第3次産業就業人口率	0.1334	50.76	
4	②1人当たり預貯金額	-0.0015	48.30	
5	⑦1人当たり工業出荷額	0.0004	15.20	
6	⑫高校通学困難集落率	-0.0179	13.97	相関比 0.680
7	⑭財政力指数	3.2482	10.50	
8	④1戸当たり農業所得	0.0014	10.25	
9	⑮交流事業実施集落率	-0.0412	6.15	
10	③上層農家率	0.0769	4.98	

## ● 中山間集落の消滅要因 (判別分析結果)

順位	変数名	判別係数	マハラリス 平方距離	F値	P値	判定
1	⑰役場までの道路距離 (80年)	0.158	5.054	16.418	0.0001	[**]
2	①農家数増減率 (80-90年)	-0.049	5.069	16.153	0.0001	[**]
3	⑭耕地利用率 (90年)	-0.041	5.430	9.671	0.0022	[**]
4	⑱小学校までの道路距離 (80年)	0.315	5.471	8.964	0.0032	[**]
5	⑯同居跡継ぎがいる農家率 (90年)	-0.037	5.587	7.018	0.0089	[*]
6	⑳平年の積雪量 (80年)	0.872	5.607	6.681	0.0107	[*]
7	④販売農家率 (90年)	-0.028	5.630	6.305	0.0131	[*]
8	⑭年間寄り合い回数 (90年)	-0.081	5.820	3.224	0.0745	[ ]
9	⑫耕作放棄地率 (90年)	0.021	5.896	2.015	0.1578	[ ]

「中山間地域の活性化要件」  
農林統計協会 橋詰登2003より



## 25～39歳の移住に関する意識

### ①地方へ移住したくなる条件（複数回答可・女性）

**「子どもの教育環境が整っていること」 30%**

### ②地方に移住したいと思った理由（複数回答可・女性）

**「子どもを育てる環境を変えたい」 34%**

### ③移住したいと思った最も大きな理由



**「子どもを育てる環境を変えたい」**

**魅力ある教育環境が  
子育て世代のUターンへの誘引に**

## 従来社会

工業化・中央集権化・標準化  
大量生産大量消費

指示を受け早く正確に  
唯一解を出す力・知識量

試験・受験合格に向けた  
外発的学習動機

教室・学校に閉ざされた  
義務的な勉強

社会

資質  
能力

動機

教育

## 未来社会

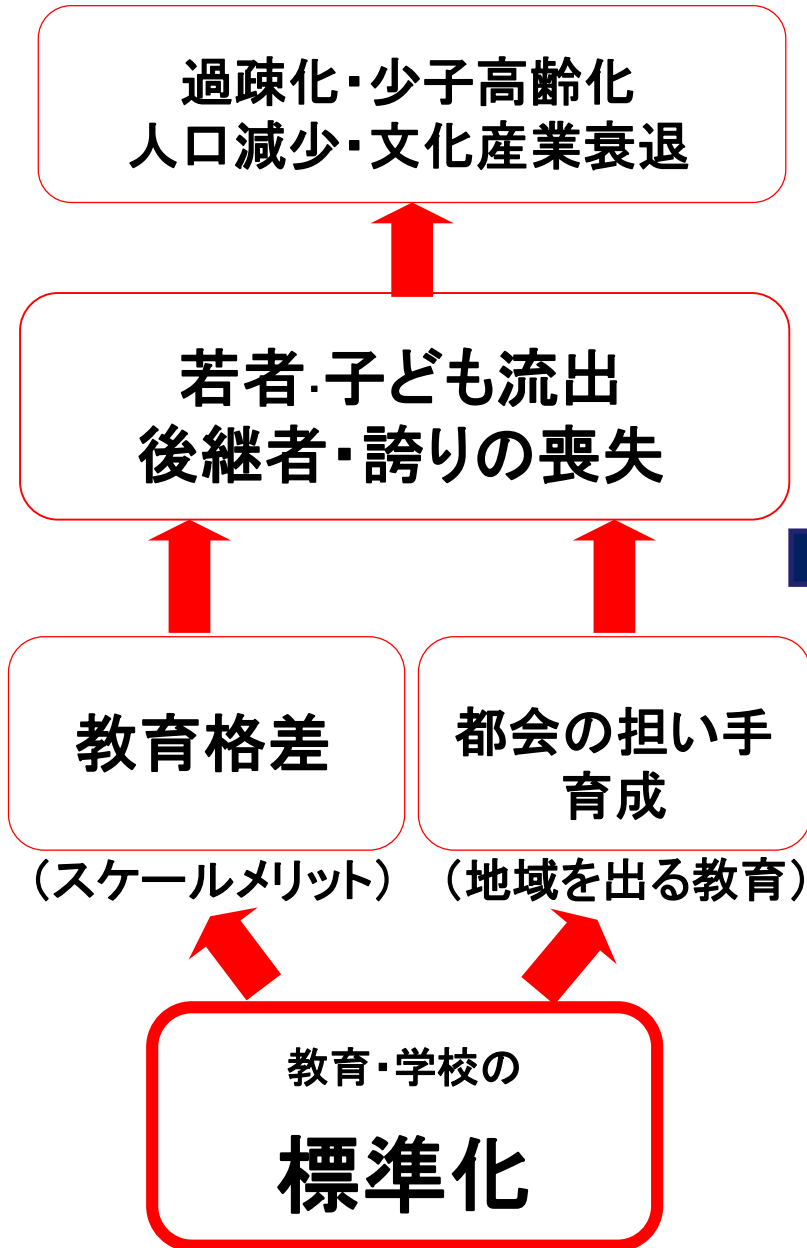
AI化・情報化・国際化  
多様化・複雑化

主体性・協働性・創造性  
課題発見解決・学び続ける力

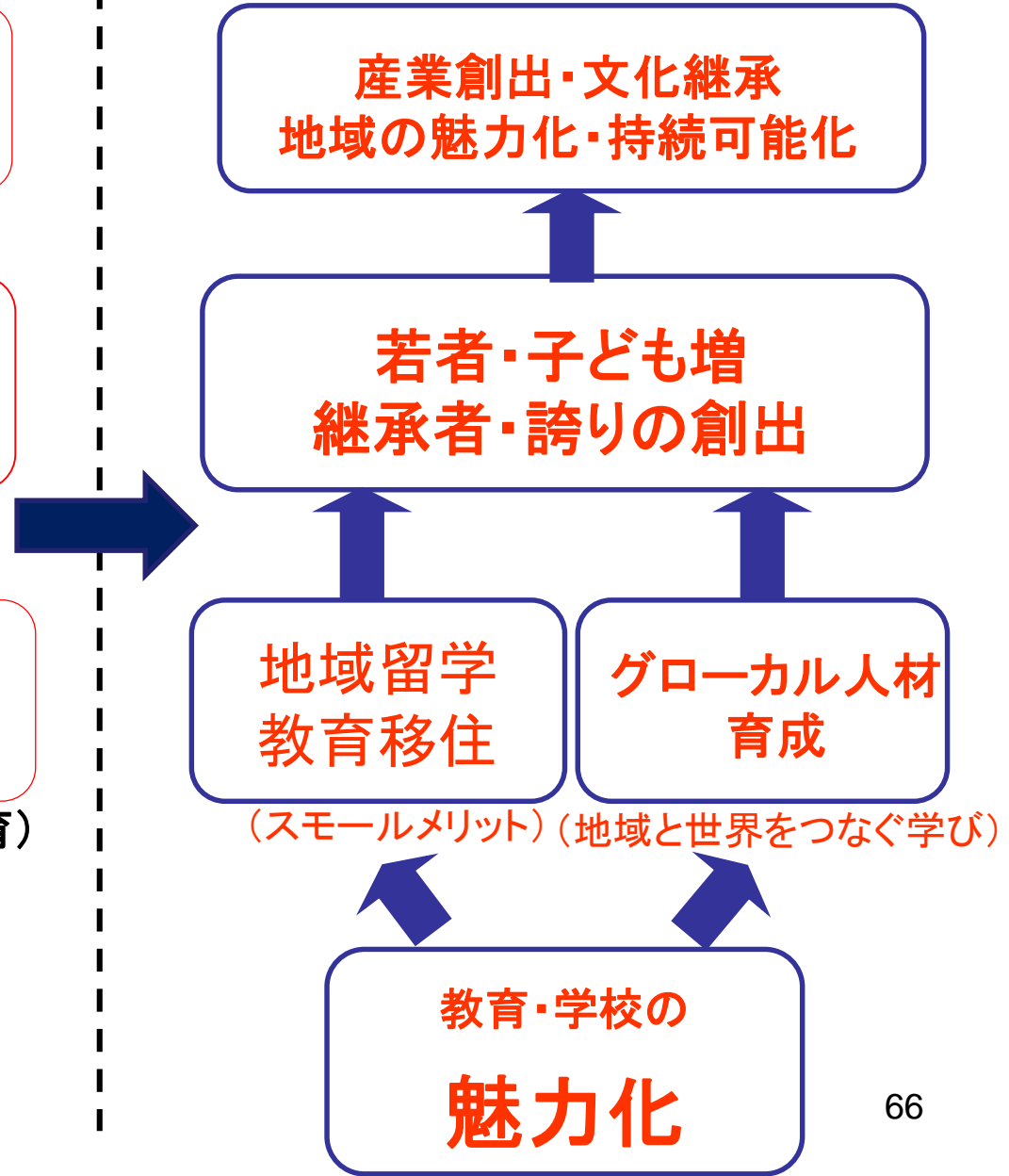
自己実現・社会に向けた  
内発的学習動機

地域・社会に開かれた  
魅力ある学び

今までの潮流  
(教育が地方衰退を促進)



これからの新潮流  
(教育・学校×地方創生)



## 高度成長社会

経済成長(GNP)・物の豊かさ

ファースト・早い安い便利

大量生産・大量消費・規格品・  
使い捨て・フリートレード

グローバル・ビッグビジネス

古きを壊し、新しきを造る  
Scrap & Build

競争・占有・対立・勝ち負け

一極集中・中央集権型



地方の過疎化・  
疲弊化・画一化

## 持続可能社会

幸福度(GNH)・暮らしの豊かさ

スロー・安心安全健康

少量多品種・高付加価値・  
4R・循環型・フェアトレード

ソーシャル・コミュニティビジネス

古きを活かし、新しきに紡ぐ  
温故維新, Renovation

共創・共有・協働・三方よし

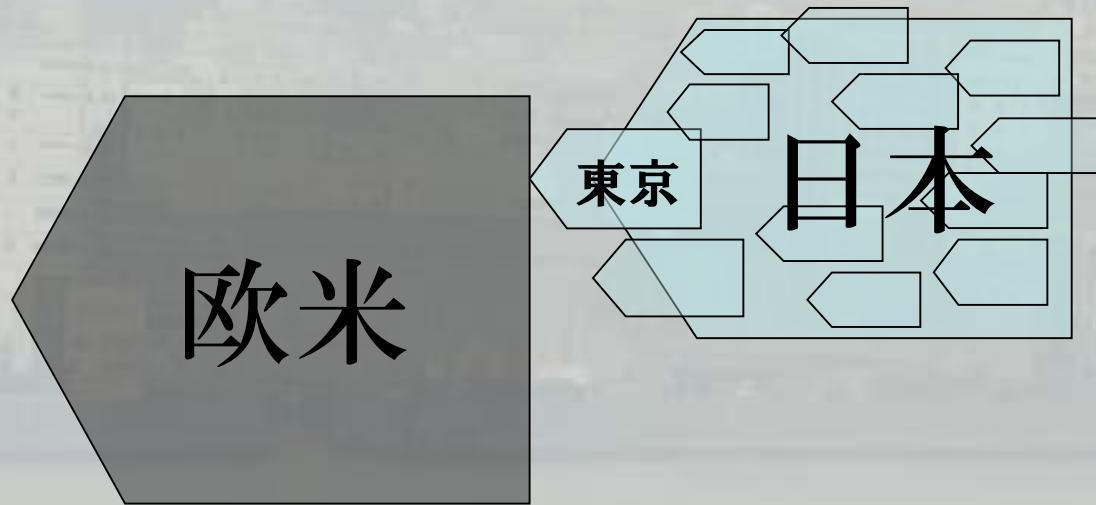
自律分散・ネットワーク型



教育・地域の  
魅力化・多様化

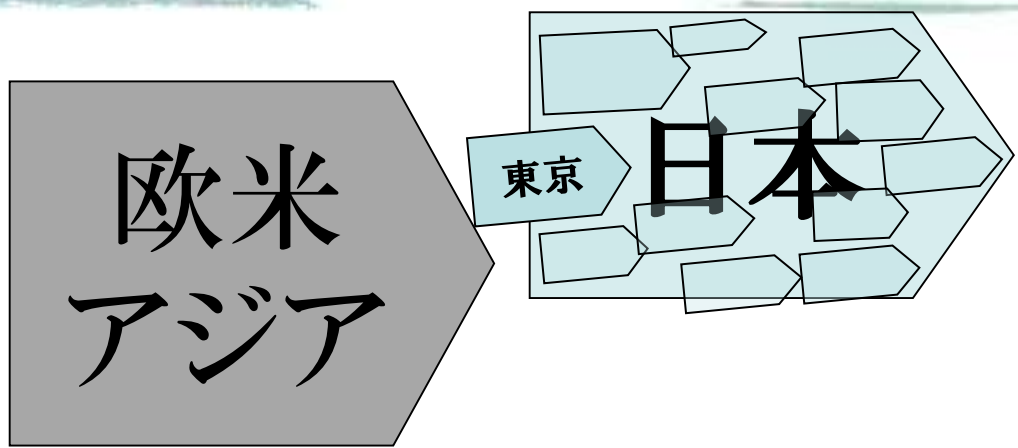
明治～高度成長期イメージ

黒船以来  
高度成長社会への  
最後尾



今後

持続可能な社会への  
曳船に  
(タグボート)



最後尾から最先端へ

# 岩本悠(いわもと ゆう)

島根県 教育魅力化特命官

地域・教育魅力化プラットフォーム 共同代表



1979年 東京都生まれ。学生時代にアジア・アフリカ 20ヶ国の地域開発の現場を巡り、『流学日記』を出版。その印税等でアフガニスタンに学校を建設。

幼稚園・小学校・中学校・高校の一種教員免許を取得し大学を卒業。

卒業後は、ソニーで人材育成・組織開発・社会貢献事業等に従事。

2007年より島根県海士町で隠岐島前高校を中心とする人づくりによるまちづくりを実践。プロジェクトは 第一回プラチナ大賞(総務大臣賞)等を受賞。

2015年から島根県教育庁と地域振興部を併任し、教育による地域創生に従事。

2016年 特別ソーシャルイノベーター最優秀賞を受賞(日本財団)。

<近著>『未来を変えた島の学校-隠岐島前発ふるさと再興への挑戦』(岩波書店)